

平成22年 3月議会での一般質問

上野伸五です。

今議会では斉藤市政の総括について、市政運営と議会との関係について質問をさせていただきます。お聞きしたい事がたくさんありすぎて、打ち合わせも未だにままたまならず、職員の方々にはご迷惑をおかけしております。

そのようなアンバイでございますので、質問があちこちに飛んでしまうかもしれませんが、ある程度は、ご容赦を賜りたいと存じます。

また、本日3月11日は3年前に飯塚市議会議員選挙が行われた日でございます。

私も議員にさせていただきました丸3年が過ぎ、職員の皆さまとは日々議論を交わしていただくなど、お世話になっております。

質疑の後半には、時間が押してくるかもしれませんが、最初に申し上げさせていただいておきます。今年度、定年退職される5人の部長さん方をはじめ、退職職員の皆さま、大変お疲れ様でございました。退職後も、より良い飯塚市実現のために、ご協力いただきますように、お願い申し上げます。(年度末までには) まだ、20日くらいございますので、最後まで、シッカリお勤めお願いいたします。それでは、質疑に入らせていただきます。

まず市民負担のあり方について、この4年間を振り返って、どのような感想をお持ちなのかお聞かせ下さい。

行財政改革推進室主幹

危機的状況にある、本市財政を立て直すためには、行政内部の改革だけではできないことから、一部の行政サービスにつきましては、市民の皆さんにご理解、ご協力をいただきながら、見直しを行ってきたところでございます。

市民負担のあり方につきましては、行財政改革を推進するという視点だけではなく、旧市町間で異なった行政サービスを受けている人と、受けていない人との負担の公平性、公正性を確保する観点から、見直しを行ってきたところでございます。

市町合併前後の、国の制度改正等と行財政改革の取組みが重なり、市民の皆さんから行政サービスが低下した、負担が増えたという声の一部あるのも事実でございますが、行政サービスは、基本的に市民の皆さんの税で賄っており、すべてを無料、または低廉な料金で提供することは不可能でございますので、今後におきましても、市民、議会の皆さんのご意見をお聞きしながら、基本的には、事務事業に要する経費の一部につきましては、適切な応分負担を、お願いしてまいりたいというふうに考えております。

うえの伸五

では、もしも市民負担の見直しを行わなかった場合、どのような事態が予測されたのか、教えてください。

行財政改革推進室主幹

行政内部の改革と併せまして、市民の皆さんに、一部負担をお願いしたことによりまして、行財政改革の効果見込み額は、平成21年度当初予算までの4年間で、約127億円となっており、一定の財政効果があつ

ております。

市民負担の見直しを含め、行財政改革に取り組まなかった場合でございますが、この4年間では、限られた財源ではありましたが、本市が目指すまちづくりを見据え、新たな事業展開や事務事業の拡充も行ってまいりました。

その事務事業の一部縮小なり、後年度に先送り等もしなければならなかったのではないかと、というふうに思っておりますし、預貯金である基金も底をつき予算編成が非常に困難な財政状況に、陥っているのではないかと、というふうに、推測いたしております。

~~~~~  
うへの伸五

再生判断比率のいずれかが、財政の破たんを示す基準を超えた場合、財政再生団体に陥れば、住民負担や、自主事業などの制限をされるということですが、例えば、公共施設の使用料金や、ゴミ袋の更なる値上げが求められたり、コミュニティバス運行事業、少人数学級教員配置などの事業が、制限されたりする事になるのでしょうか。

~~~~~  
財政課長

基準を超えました場合には、国等の関与による、計画的な歳入歳出の見直しを行わなければなりませんので、あくまでも、可能性としてのお話になりますが、質問議員の言われるような制限なども、考えられます。

~~~~~  
うへの伸五

今、市民負担の見直しをやらないと財政状態は年を追うごとに悪化し、次世代にはもっと大きな負担を強いることになる可能性が大きかった、という理解をしてよろしいですか。

~~~~~  
行財政改革推進室主幹

早期に危機的状況にある本市財政を立て直し、次世代を担う子ども達に、安心してこのまちを引き継ぐため、できる限り、行政内部の改革を中心といたしまして、一部につきましては、市民の皆さんに、ご負担をお願いしてきたところでございます。

財政再建に早期に取り組まなければ、行政サービスの提供に、大きな影響を与える事になり、近い将来、市民の皆さんに大きな負担を、お願いしなければならないような状況になることが、予想されるところでございます。

~~~~~  
うへの伸五

市民への負担を大きくするという事は、簡単に申し上げれば、市民の皆さんに嫌われるということです。考えれば誰にでもわかることです。

しかし、飯塚市の将来を考えて、敢えて、そこに手を付けられたという決断については、一定の評価と敬意を表したいと、思うわけです。

飯塚市に住む市民にとって、将来、借金が膨れ上がった時点で、市の財産もありませんから、借金のほうも0にしてください、こういう、いわゆる相続放棄みたいなことはできないわけですから、今後もできるだけ傷口の小さいうちに、できるだけ、最小限の市民負担で対処していただくようお願いいたします。

先ずは財政の立て直しからということ、よく理解できましたが、いつまでも我慢ばかりでは、飯塚市発展の展望が開けません。

住みたいまち、住み続けたいまちに向けて、どのような成長戦略を行ってこられたのか、また、どのような土台づくりを行ってこられたのか、具体的にお示し下さい。

~~~~~  
総合政策課長

ゴミ袋の値上げ等の市民負担につきましては、先ほど答弁がありましたように、行政サービスの統一、平準化、利用者負担の公平性、公正性確保を図るとともに、単年度収支のバランスをとっていくために行ったものでございまして、市民負担分を、成長戦略のために充てたということでは、決してございません。

その収支バランスをとっていく中で、あえて成長戦略、土台づくりという点から申し上げますと、義務教育就学前までの乳幼児医療費助成制度の拡大、小学校1年生から3年生までにおける35人以下学級の実施、筑豊労災病院を市立病院といたしました地域医療の確保、コミュニティバスの全市運行など、市民の福祉向上のための施策を実施してきたというところでございます。

~~~~~  
うへの伸五

市民負担の公平性、公正性の確保という点では、近年、市営住宅家賃や学校給食費の悪質な滞納者に向けて法的処置をとっておられますので、市民にも分かりやすいと思います。

今ご答弁にあった、医療費助成制度の拡大、35人以下学級、市立病院、コミュニティバス、つまり、子育て、教育、医療、交通弱者に対するまちづくりへの参画、この4つの施策の現状認識と今後について、どのようなお考えなのか、お聞かせ下さい。

~~~~~  
企画調整部長

合併しまして、4年が過ぎようとしています。

まず行財政改革を推進しますとともに、飯塚市総合計画の都市目標像でございます、人が輝き、まちが飛躍する、住みたいまち、住み続けたいまちの実現に向けまして、全市一丸となりまして取り組んでいるところでございます。

ただ今ご質問のありました、子育て支援、教育環境、医療、交通弱者に対するまちづくりへの参画についての現状認識という事でございます。

まずは、子育て支援につきましては、子育て支援センターの充実、そして産前産後の子育て支援事業、ファミリーサポートセンターの事業、そして、母子家庭日常生活支援事業等の実施のほか、義務教育就学前までの乳幼児医療費の助成制度の拡大、さらには、妊婦健診の公費負担回数の拡大などを行っております。教育環境の充実につきましては、幼児教育の強化支援、そして、特色ある学校づくりを実施していますほか、小学校1年生から3年生までにつきましては、35人以下学級を実現をいたしております。

また、小中学校の耐震化、そして、これに伴います大規模改修につきましては、年次計画の中で取り組みを行っております、併せまして、小中一貫教育の実現を目指しているところでございます。

医療体制の充実につきましては、地域住民の健康と生命を守るために、旧筑豊労災病院の廃止後の中核的な医療機関としまして飯塚市立病院を開設し、地域医療の充実を図っております。

また、顛田病院につきましては、民間病院へ移譲を行いまして、さらなる地域の医療の充実を図っているところでございます。

交通弱者に対しますまちづくりの参画については、公共交通機関、いわゆる路線バスが廃止されていく中で交通空白地域の解消を図りますとともに、病院そして中心商店街、公共施設の利用など、高齢者の外出の機会を促進するために、飯塚地区を含めましたコミュニティバスの全市的な運行を行っているところでござい

ます。

今後の方針、いわゆる今後の考え方としましては、人口が減少していく中で本市の定住人口の確保を図り、快適で活力あるまちづくりを推進していくためにも、また、安心して子どもを産み育てやすいまちづくりを推進していく上でも、乳幼児医療費助成制度の年齢制限の引き上げや、中心市街地等におけます赤ちゃん駅の設置推進、また、不妊治療費の助成なども十分に視野に入れた中での検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

また、教育環境の充実につきましては、先ほど答弁しましたけど、35人以下学級の拡大、さらには小中学校の大規模改修の促進、ここらあたりを十分に視野に入れた中で、検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

医療体制の充実につきましても、この飯塚市立病院の医師確保等を含めたところの医療体制の充実、さらには飯塚医師会からのご協力をいただきながら、一次医療機関、二次医療機関、三次医療機関との連携を高めていきながら、地域の医療体制の充実にも努めてまいりたいというふうに考えております。

最後になりますが、コミュニティバスの運行につきましては、本年度見送った計画もございます。

この他にも、十分に検証した中で、地元の市民の皆さん方のご意見等も十分に反映し、効率的かつ効果的なコミュニティバスの運行を図ってまいりたいというふうに考えております。

本市の財政状況を十分に勘案した中で、一体性のある快適で活力あるまちづくりに推進してまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

~~~~~

うえの伸五

ご丁寧な答弁、本当にありがとうございます。

行財政改革の中、飯塚市の成長戦略の土台として手掛けられた事業が、今後、ますます拡充されようとしております。

次年度以降も、大事に育てていただきたいと思っております。

次に、災害対策についてのお考えをお聞かせ願いたいのですが、二度の水害に見舞われた飯塚市でございます。このご答弁は、担当部長よりいただきたいと思っております。よろしく願います。

~~~~~

都市建設部長

浸水対策のハード面についてでございますが、現状での対応状況、並びに、今後の対応につきまして報告をさせていただきます。

平成15年7月19日の大水害で甚大な被害をこうむった事によりまして、年次計画的に種々の浸水対策工事を国、県を始め実施してきたところでございます。

しかしながら、昨年の7月に、再び集中豪雨に見舞われまして、甚大な浸水被害が発生をいたしております。このことから、自治会長会を始め、水害被害にあわれました市民の皆さま方から様々なご意見やご要望をお受けいたしております。

少しでも市民の皆さま方の不安を解消するために、予算的に早急に取り組み可能な応急対策といたしまして、河川の浚渫や、護岸工事及び、護岸嵩上げ工事などを実施しておるところでございます。

今後とも、予想し得る集中豪雨に対しまして迅速に対応していくために、各河川、水路流域の現状把握と水理解析を行うために、治水対策基本計画の基本調査業務を発注いたしております。

今後におきまして、その対応につきましては、この調査結果を踏まえまして、飯塚市浸水対策基本計画を策定いたしまして、市の財政状況や国の方針などを考慮いたしました中で、また国や県と連携を図りながら、

市民の皆さま方が、少しでも安心して安全な生活ができますように取り組んで参りたいと、いうふうに考えております。

~~~~~  
うへの伸五

このようなハード面の整備については大きな財政支出を伴う場合もあると思いますが、財政部局も、同じ考えであると理解してよろしいですか。

~~~~~  
財務部長

浸水対策につきましては重要な課題と認識しております。

都市建設部長が答弁いたしましたように、国、県と連携をとり、限られた財源の中で他事業との調整を図り、取り組んでまいりたいと考えております。

~~~~~  
うへの伸五

市民の命と財産を守るために、これまでの経験を活かした災害対策、シッカリと続けていただきますようお願いいたします。

さて、以前の代表質問でもご提案申し上げましたが、産学官が一体となった地元の農産物、特産物のネット販売網の構築ですが、先般、大川市の取り組みが報道されました。

このような素養は飯塚市にも大きくあると考えておりますが、取り組みいかがでしょうか。

~~~~~  
経済部長

インターネットを利用いたしましたショッピングサイトにつきましては、現在、ヤフーや楽天が急速に発展をし、利用が拡大しているところでございます。

本市のベンチャー企業は市内に50社ございますが、この約半数がIT系の企業であります。

中には消費者の食の安全を求めるニーズに応えるため、安全確保に必要な生産情報を管理するソフトを開発した企業が、農産物の地域ブランド化を目指しまして、PRや販売網の構築に取り組まれております。

また、市内には和菓子や洋菓子などスイーツがたくさんございますし、フキやウコンなどの特産品もあります。

このほか、大手のネットショッピングサイトに出店をいたしまして、自然と安全を追求した新鮮な卵を販売している農場、また、県産大豆を活用しまして開発した豆腐を地域資源と認定され、販路拡大を目指した事業展開をされておる企業さんもございます。

このように、本市におきましては、ICTを利活用して

地域経済の活性化に取り組む環境は大いにあると考えておりますので、

今後構築されます

大川市のインターネットを利用したショッピングサイトにつきまして、

十分な情報収集を行い、研究してまいりたいというふうに考えております。

~~~~~  
うへの伸五

物はあるけれど、売の手だてがない。

そのような状況が多いのではないかと感じています。

逆に、売れる方法が提供されるとするならば、農家の方々や地元特産物の生産に携わるの方々から、いろいろ

なアイデアが生まれてくるのだと思います。

是非、そのような提案ができるように検討を進めていただきたいと思います。

次に、行政・財政改革についてお聞きいたします。

市民サービスの向上と行財政改革を両立させるためには、齊藤市長自らが、4年間で、合計67回実施された座談会やタウンミーティングでの、市民からの苦情や怒りの言葉、要望などを真摯に受け止め、市民とともに築いていくまちづくりを進めていかなければならないと考えますが、この点、どのような認識をお持ちでしょうか。

~~~~~  
行財政改革室主幹

行財政改革は、活力、魅力あるまちづくりにつなげるために行っているものでございます。

タウンミーティングなどで、市民の皆さんからいただきました様々なご意見等につきましては、関係部署で検討、協議を行いながら、できる限り、改善等に努めているところでございます。

今後におきましても、行財政改革実施計画第1次改定版、補助金等の見直しに関する指針に掲げておりますように、市民参画の中で、事務事業仕分けを活用した行政評価制度の導入、補助金の抜本的な見直しなどを行ってまいりたいと考えております。

また、これと並行いたしまして、協働のまちづくり、地域コミュニティを市民の皆さんとともに築きあげていくためには、地域向け補助金の一本化、地域担当制や公募型・提案型補助金制度の導入など、地域活性化に結びつくような、協働のまちづくり事業を、市民の皆さんと一体となって早期に展開できるように、関係部署と検討を行ってまいりたいというふうに考えております。

~~~~~  
うへの伸五

協働のまちづくりをさらに進めていくために、事業仕分けや補助金の一本化という表現で、地域への財源と権限の移譲について掘り下げてお答えいただきましたが、12月議会でも質疑いたしましたように、その対象は、各地域のまちづくり協議会であると思います。

各地域の協議会設置の時期については、学校統廃合との関係について、この議会で質疑が行われましたが、この財源と権限の移譲については、市内すべての地域で、まちづくり協議会が設置されるまで待つのか、それとも協議会が設立された地域から試行的に実施していくのか、ご見解をお聞かせください。

~~~~~  
行財政改革推進室主幹

まちづくり協議会につきましては、平成22年度までに設立できますように、いま現在準備が進められております。

設置時期につきましては、地域によりまして、多少異なってくるのが予想されております。

地域の特性、実情に応じた、自主、自立したまちづくり活動を行っていただくためには、人的支援を含め、財政的な支援が必要であると考えております。

このようなことから、まちづくり協議会が設立された地域には、一本化した地域向け補助金が交付できるような仕組みについて、関係部署と検討を行ってまいりたいと考えております。

~~~~~  
うへの伸五

地域活動や地域コミュニティを活性化させるために、権限や財源の移譲は非常に効果的だと考えます。

協働のまちづくりを更に推進していく上においても、地域の皆さまと、行政とが一緒に先進事例を研究し、

それぞれの地域を形づくっていく、そのような施策を期待したいのですが、担当課としてはどのような認識ですか。

市民活動推進課長

地域コミュニティを活性化させていくための財源の移譲につきましては、地域補助金などがありまして、地域の組織の設立や、勉強会の開催などのように、地域の充実に関するものがございます。また、地域の課題の把握や、その解決に対する活動を推進していくものもございます。今後、地域の意見を聞きながら、関係課とも連携をしながら、協議しながら、この制度の構築をしてまいりたいと思います。

うへの伸五

ありがとうございます。

しっかりと前へ進んでいただきますように、お願い申し上げます。

次に、公共施設について見直しが行われておりますが、基本的な考えについてお示してください。

行財政改革推進室主幹

公共施設のあり方を見直すことにつきましては、市長合併の最大のメリットの1つでございますが、築20年以上の施設が、約70%を占め老朽化した施設が多く、現在の施設数、施設規模等を、このまま維持していくと、老朽化等に伴う耐震化や更新建替工事等が必要となり、一時期に集中して多大な費用を要するとともに、施設の維持管理運営におきましても、年間40億円程度の多額の経費を要していることから、現行のまま存続させるとなれば、他の行政サービスの提供に大きな影響を与える事になります。今後におきましては、市民の皆さんのご理解、ご協力をいただきながら、公共施設等のあり方に関する実施計画を、計画的かつ着実に実施してまいりたいと考えております。

うへの伸五

今、ご答弁にあった合併最大のメリット。

これは、市民にとりましても大きなチャンスだと思います。

今まで5つあった財布が合併により1つになった。

全ての地域に全て同じ施設をそろえ、地域の要望を全てかなえられることが、行政にとっても、私ども議員にとっても理想ではあるわけですが、そんなことをやれば、住民負担はとんでもなく異常な金額になるということも、わかりきっています。

旧自治体それぞれの特色を勘案しながらも、将来、飯塚市を担っていただく子ども達に対して、借金や施設の維持費を減らして、市民の方々の要望を大きく実現することができる財政状態を手渡す。

この事こそが、施設のあり方を考える中での最重要課題だと、私は思います。

今後も、将来を見据えた取り組みを、確実に、実施していただきますように、お願い申し上げます。

さて、先日同僚議員から、読み聞かせの方々への表彰制度について、質疑が行われました。

文化・スポーツで活躍された市民の方々との交流について、現在は、齊藤市長が、その都度時間を割いて会談をしていただいております。

それはそれで、大変喜ばれておりますが、たとえば、年に1度か2度、活躍された方々や地域功労者の皆さんを一堂に会して、その皆さん方の前で、それぞれの功績を讃え、また、その活動写真やビデオを商店街や、

公共施設の空きスペースなどに展示・放映することにより、新しいにぎわいが創出できるのではないかと考えるのですが、いかがでしょうか。

~~~~~  
総務部長

市民表彰制度につきましては、合併協議におきまして、名誉市民制度との調整を含めまして新市において検討するとされておりました。

このため、来年度合併5周年を迎えます事から、現在、名誉市民規定とともに、表彰規定を作成すべく検討を行っております。

質問者のご意見は、広義の意味の表彰を含めてのものと考えられますが、関係部署とも協議を行いまして効果的な制度構築に常に努めますとともに、情報発信の手法等についても、併せて協議をいたしたいと考えております。

~~~~~  
うへの伸五

名誉市民ですとか、表彰制度規定の見直しですとか、そういった大掛かりな類ではなくて、少ない予算でも考え方一つで、もっと気軽に市民の皆さんに喜んでいただける取り組みができるのではないかと、考えているわけです。

大きなやりがいの育成が、大きな生きがいにつながって、地域の見守りや青少年への継承につながり、そして、活力・魅力あるまち、住みたいまち住み続けたいまちに、つながっていくのだと思います。

財源が厳しい中でも、知恵を使い、知恵を借りながら、市民の皆さんに喜んでいただける施策を、更に模索していただきますように、要望いたします。

次に、市政運営と議会の関係についてお伺いをしますが、まず、議案が否決された場合の行政としての対応の在り方についてですが、飯塚市では数十年ぶりに議案が否決された、と話題になりました。

その後も数回、否決された議案がございますし、私自身も反対した議案があります。

行政の皆さんの気持ちを考えると、このようなことを申し上げるのは大変失礼かもしれませんが、市民にとっては、議案が否決されたことが新聞等で大きく報道されることにより、行政や議会に、改めて目を向ける機会が出来たともいえるわけです。

ただ、否決された議案についての取り扱い、どのようになされているのかがわからない。

特に、再提案されていない議案については、どのような議論がなされたのか、お知らせいただきたい。

~~~~~  
企画調整部長

執行部といたしましては、議会に提案します議案については、可決に向けまして、最大限の努力をいたしております。そのためにも、議会の皆さま方に対して分かりやすく、そして、しっかりした内容の説明を行い、理解を求めているところでございます。

これまでに、いくつかの議案が否決されましたが、その内容を分析してみますと、議案についての市の考え方が、議員の皆さま方に理解されなかった事、そして、執行部としまして説明不足のあったところ、また議員の皆さま方からご指摘等がなされまして、それによって、議案が否決されたというような事で、私のほうは受け止めております。

執行部としましては、議案が否決されたということを重く受けておりまして、その否決された内容について十分に分析をいたし、そして、検討を行ったうえで再提案をするのか、また、見直すべきところは見直した中で修正議案として提案するかの判断を行ったうえで、議案可決に向けまして、最大限の努力を行っている

ところでございます。

~~~~~  
うへの伸五

議会からの指摘や、飯塚市の現状、将来を考えて、再提案、また修正後の再提案、そして再提案しないという、それぞれの選択自体は、決して非難されるべきものではないと思います。

今後も、否決議案が出る可能性はあるんですから、社会情勢や、飯塚市のあるべき姿を十分に調査、検討された上で議案の取り扱いについての判断を下していただきたい。

このようにお願いを申し上げます。

そのいくつか否決された議案の中でも、再提案され可決された、鯉田工場団地の造成。

これは名古屋事務所の設置を含めて、市民の関心は非常に高いのですが、これらについての行政の考えは、同僚議員から何度となく質疑が繰り返されておりますので、ここではお聞きいたしません、現在のような経済状況では、企業誘致もままならないでしょう。

鯉田、目尾、リサーチパークを含めて、これらの工業団地については、用途地域の変更でも行って売りやすくしたほうが良いのではないかと考えるのですが、いかがでしょうか。

~~~~~  
経済部長

これまでも、リサーチパーク用地につきましては、用途の見直しなどのご意見もいただいておりますが、用地の有効利活用からも、行財政改革推進項目の1つとして捉えておりますので、今後経済情勢の動向等も考慮しながら十分に検討してまいりたいというふうに考えております。

また、ご指摘の鯉田、目尾工業団地につきましては、安定した雇用創出を図るため現状の取組みを継続し、製造業等の企業に立地していただきたいと考えておまして、今後も企業立地の実現に向け、誘致活動を展開してまいりたいと考えております。

~~~~~  
うへの伸五

同じ企業誘致でも、さまざまな角度から検討することが大切だと思います。

飯塚市は、車いすテニス大会が世界的に著名となっておりますので、例えば、障がい者の方々を中心にあって働ける工場の提案だとか、障がい者職業能力開発校の誘致ですとか、今、脚光を浴び始めているバイオ工場など、高齢者の方々が、十分に経験を活かせる企業への誘致活動へと、裾野を広げていかなければならないのではないかと思っておりますが、この点は、どのように認識されておられますか。

~~~~~  
経済部長

用途の見直しの際の具体策としてのご提案であります、障がい者や高齢者の就業機会の提供、また、農商工連携の推進などにもかかわります。

今後関係部署などとも協議しながら、今後、十分に検討してまいりたいというふうに考えております。

~~~~~  
うへの伸五

部長、もう検討していただく時間は非常に少ないと思いますよ。

いろいろな可能性に素早く対応できるような、企業誘致活動を進めていただきますようお願い申し上げるとともに、市民の皆さんは、その結果に、大きな期待をしていることを申し上げさせていただきます、この質問は終わります。しっかり頑張ってください。

次に、市民および議会に対する行政の果たすべき役割について、お伺いいたします。

先の12月議会でも申し述べましたが、行政と市民、議会の3者間においては、信頼関係の構築、維持が大変重要だと考えますが、この点については、どのような認識をお持ちですか。

総務部長

施策の決定やその推進にあたりましては、市民、また議員の皆さまへ、適切に、その説明責任を果たすことが必要でございます。また、信頼関係の構築が肝要であるというふうに、認識をいたしております。

うへの伸五

施策のわかりやすい説明は、市民への説明義務を果たす上で、大変重要だと考えます。

先ほど述べたように、否決議案については、ある程度詳しく報道もされますが、その他の議案の詳細は、ほとんど市民の目に届くことはありません。

そこに行政のメリットは市民のデメリットといった、誤解や心の溝ができていくのではないかと、思っているんです。

そもそも、市民と行政とは一体であるはずですが。

なぜ、市民負担をお願いしなければならないのか、

なぜ、施設の統廃合を行わなければならないのか、

なぜ、工場団地を造らなければならないのか、

さらに、なぜ、今やらなければならないのか、

そのような説明を、市民の皆さんに丁寧に行うことができるのは、現段階では市報だと思います。

そのような意味において、市報の更なる充実を求めたいのですが、いかがお考えですか。

企画調整部長

ただいま、ご指摘の件につきまして、今から、協働のまちづくりを推進していくためには、また、まちづくりでの主役でございます市民の皆さんに対しまして、市政情報の透明性を高めるために、また、情報の共有化を図り、市民の皆さんへの説明責任を果たすということは、極めて大切な事でございます。

そのためにも、情報公開のさらなる確立を図るとともに、市政情報の発信の一つの手段でございます市報につきましても、今後十分に工夫を凝らし、そして、市民の皆さんに、正確でわかりやすい内容の掲載に、心がけてまいりたいというふうに考えております。

うへの伸五

市長、これは、すぐ手がけていただきたいと思うんです。

場合によっては、月によって、市報のページ数が倍になっても構わないと思います。

協働のまちづくりを掲げる飯塚市は、行政の考えを市民の皆さんにシッカリ丁寧に伝える。

ここに大きな力を注ぐべきだと考えますので、早期の実現をよろしく願いいたします。

さて、齊藤市長、

今ると私、質疑をさせていただきましたが、この1期4年間、齊藤市政の総括を、市長ご自身より承りたいと存じます。

齊藤市長

この4年間、市民の皆さまに、市政へのご理解をいただきました事を本当にありがたく思っております。私が市長に就任した際には、就任する前以上の、私が想定していた以上の本市の財政状況の悪化に直面をいたしました。

この状況を克服するために財政の非常事態宣言を行いまして、行財政改革の推進に積極的に取り組んできました。

行財政改革というのは、市民サービスにも多大な影響を与えるということから、実施するに当りまして、私は、本当に非常に厳しい決断をしなければならなかったわけですが、これは、危機的な財政状況の中にある本市を、早期に立て直さなければならぬと考え、将来を担う子ども達のために、安心してこのまちを引き継ぐことが、そうしないとできないという思いからであります。

市民の皆さまには、負担をお願いすることは、できるだけ避けたかったわけではございますが、これ以上傷口を広げてはならない。

嫌なことほどですね、できるだけ早くお伝えしまして誠実をお願いすることが、市政を預かる首長の責任だと考えたわけでございます。

その結果といたしまして、ゴミ袋の値上げや、長寿祝い金の節目支給を始め、施設の統廃合など、本当に市民の皆さんに、大変ご迷惑をかけたところでございます。

~~~~~  
うへの伸五

今までの質疑において、飯塚市の明るい未来を築くためには、少なからず住民負担が伴うということは理解いたしますが、その成果について、齊藤市長は、どのようにお考えですか。

~~~~~  
齊藤市長

先ほどの答弁の中にもございましたけども、この行財政の効率化や無駄をですね、削減して、4年間で127億円という行財政改革の効果が表れ、限られた財源ではありましたが、教育、また子育て支援、安心安全なまちづくりのためにですね、取り組んできた部分もございしますが、この4年間の取り組みにつきましては、様々なご意見はあると思います。

しかし、近い将来、本当に子ども達が、また市民の皆さんが、このまちに住んで良かったと思えるまちづくりの施策の一つだということで、私は、ある部分では成果としてあったんじゃないかなと思うと思います。

それが、十二分な効果であったとか、十二分に市民の皆さんが喜んでいただけたと、そういうことについては、十分だという認識の中にはありませんけれども、ある程度のものは、させていただいたと思っております。

~~~~~  
うへの伸五

市民に負担を伴うような言いにくい事こそ、やらなくてはならない時には、正々堂々と真正面から取り組んでいただいて、明るい飯塚市の未来を切り開いていただきたい。

市内の中学校では、本日卒業式が執り行われております。

彼らに、自信を持って手渡すことのできる新生飯塚市の構築、まだまだ、道半ばです。

市民の皆さまへの4年間の感謝の気持ちを、政策実現へとつなげていただきますように、お願い申し上げ、齊藤市長の、今後のご活躍に、大きなご期待を申し上げて、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。